

**横浜市立小中一貫校 霧が丘小中学校 平成27年度版 中期学校経営方針**  
(平成25年4月～平成28年3月)

**学 校 概 要**

横浜市立小中一貫校 霧が丘小中学校(施設併設型小中一貫校) 平成22年4月1日創立  
 霧が丘小学校 平成18年4月1日創立 霧が丘中学校 昭和57年4月1日創立  
 平成27年度  
 学校長：酒井 徹 准校長：宇都宮 桂 小学校副校長：小田 和宏 中学校副校長：松浦 良彦  
 小学校 一般学級：19(児童数643名) 個別支援学級：3(児童数16名)  
 中学校 一般学級：9(生徒数326名) 個別支援学級：2(生徒数8名) 全校児童生徒数：993名

**学 校 教 育 目 標**

- ◎人とかかわり合いを大切にした教育を推進し、豊かな人間性をもった児童・生徒を育てます。
- 【小学校】
- 子どもたちの興味・関心を高める授業実践に取り組み、学びの基礎・基本を身に付けるようにします。(知)
  - 仲間を大切に、礼儀正しく、最後までやり遂げる心を育てます。(徳)
  - 自他の健康に関心をもち、生命を大切に作る姿勢を育みます。(体)
  - 豊かな体験活動を通して、地域社会の一員として生きる姿勢を育てます。(公)
  - 言語活動や情報教育を通してコミュニケーション能力を育て、国際社会に対するものの見方を広げます。(開)
- 【中学校】
- 基礎・基本を習得させ、学習課題に活用し、探求する喜びを実感できる学びの実践を進めます。(知)
  - 自律の精神を培い、自他の人格を尊重し、思いやりの感性を伸ばします。(徳)
  - 自他の生命を尊重し、心身共に健やかな成長を心がける姿勢を育みます。(体)
  - 様々な人とのコミュニケーションを通じて、地域・社会に貢献できるように育てます。(公・開)

**学 校 経 営 中 期 目 標**

- ◎学校教育目標を実現するために、小学校、中学校それぞれのよさや役割・機能を大切にしつつ一貫校としての9年間の教育活動に取り組み、児童・生徒の人間形成に努めるとともに魅力ある小中学校づくりを目指します。
- 全教職員が小中一貫校としての学校経営に主体的に参加し、9年間を見通した教育を推進しています。
- 施設併設型小中一貫校の利点を活かし、各教科等における円滑な接続、特色を明確にした教育課程の展開や体育館や特別教室など施設の有効活用に取り組んでいます。
- 「学習習慣スタンダード」「生活習慣スタンダード」を活用して家庭との連携しながら、学習や生活の改善を図っています。
- 児童生徒の交流、教職員の交流、指導部会の充実を図り、一人ひとりの児童生徒の理解に努めるとともに、相互で情報を共有するなど、9年間を見通した子どもの支援に努めています。
- 学校運営協議会を核として、地域・PTA・関係諸機関・地域の教育機関との連携を進め、人と人との関わりを重視しながら子どもの育成が図られています。

<b>学校経営 中期目標 設定理由</b>	平成22年4月に小中一貫校として開校し、3年間小学校・中学校としての教育活動に取り組むとともに、小中一貫校の基礎・基本づくりに取り組んできました。その中で見えてきた成果と課題を踏まえて、子どもの発達段階に応じた教育支援と児童・生徒、保護者、地域にとって魅力のある一貫校づくりに努めます。
-------------------------------	---

**小 中 一 貫 教 育 推 進 ブ ロ ッ ク 目 標**

<b>共通目標</b>	学校経営中期目標と同じ
<b>自校の取組</b>	9年間を4年―3年―2年でつなぎ、それぞれの期間の子どもの発達や実態に即した指導を展開します。具体的には、小学部(1～4年生)では「ゆめ」と「元気」、連携携部(5～7年生)では「仲間」と「自立(自律)」、中学部(8～9年生)では「貢献」と「発信」に視点をあてた取り組みを行います。

**共 通 取 組 内 容**

1 確かな学力	2 豊かな心	3 健やかな体
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の成果と課題を分析し、学習状況調査結果などを参考に、小中学校教科会を中心に子どもの学力向上に取り組んでいます。</li> <li>○小中学校共同授業研究会を通じて、思考力や表現力の育成に向けた授業力の向上、授業形態の工夫などの改善に取り組んでいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科等を含む様々な教育活動を通じて、それぞれの発達段階に応じた「自尊感情」、「自己有用感」の育成に取り組んでいます。</li> <li>○実体験・本物体験・地域体験・情操教育などの機会を活かし、正しい判断力、思いやりの心、公共心や社会貢献の意識の伸長を図っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活意識調査結果などを参考に、小学校では給食を活用した食育の実践、中学校では保健・安全面の指導の充実に取り組んでいます。</li> <li>○9年間の新体力テストのデータを参考に、小学校体育部、中学校体育科を中心に共同授業等に取り組みながら、児童・生徒の体力向上に努めています。</li> </ul>

**重点取組分野**

4 教育課程・学習指導	5 児童生徒指導	7 地域連携
<p>○施設併設型小中一貫校の利点を活かし、各教科等の円滑な接続、特色を明確にした教育課程の展開に取り組んでいます。</p> <p>○小学校としての役割、中学校としての役割を大切にしながら、9年間で4年—3年—2年でつなぎ、それぞれの期間の子どもの実態に即した指導を展開することにより、連携部を中心に小学部・中学部の充実を図っています。</p>	<p>○児童生徒指導部会を中心に研修や協議・対応等とともにを行うことにより、円滑な指導等が行える態勢を整えます。</p> <p>○9年間の視点で児童・生徒指導の在り方を考え、機能的な指導形態と情報伝達に努めます。</p> <p>○児童生徒指導や「いじめ」等については、児童支援専任・生徒指導専任を中心に情報の共有など小学校と中学校の連携を図りつつ、防止や早期発見に努めています。</p>	<p>○学校運営協議会では</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保護者や地域住民等の意向を把握し、学校運営・教育活動に反映させています。</li> <li>2. 地域の人材や学校教育ボランティアの活用を進めています。</li> </ol> <p>○連合自治会とのかかわりにおいて、多くの教育的な活動の場面があり、子どもたちの安全や健全育成に活かされています。</p>

**人材育成・組織運営**

<p>○小学校、中学校の核となる教職員を中心に、小中一貫校としての学校経営への参画意識の向上を図っています。</p> <p>○小中学校としてのメンターチームを編成し、教師力の向上を図るだけでなく、小学校と中学校の教員のよい交流の場となるようにします。</p> <p>○一貫校としての組織が機能的に動くように、小学校・中学校それぞれの校内組織との連動を考えながら見直しを行うとともに、小中合同の指導部会や教科会の充実を図っています。</p> <p>○小学校と中学校間の連絡を密に行い、コンプライアンス、児童生徒指導・いじめ等の情報共有や危機管理などについて、迅速で的確に対応できるように努めています。</p>
---